

研修者名

評価者氏名

(職種名：)

評価期間

年

月

日

～

年

月

日

プロフェッショナリズムに関する評価		評価日(年 月 日)		※本項目は研修終了時に評価する	
	レベル1 期待を大きく下回る	レベル2 期待を下回る	レベル3 期待通り	レベル4 期待を大きく上回る	観察機会なし
1. 社会的使命と公衆衛生への寄与 社会的使命を自覚し、説明責任を果たしつつ、限りある資源や社会の変遷に配慮した公正な医療の提供及び公衆衛生の向上に努める。	☐	☐	☐	☐	☐
2. 利他的な態度 患者の苦痛や不安の軽減と福利の向上を最優先し、患者の価値観や自己決定権を尊重する。	☐	☐	☐	☐	☐
3. 人間性の尊重 患者や家族の多様な価値観、感情、知識に配慮し、尊敬の念と思いやりの心を持って接する。	☐	☐	☐	☐	☐
4. 自ら高める姿勢 自らの言動及び医療の内容を省察し、常に資質・能力の向上に努める。	☐	☐	☐	☐	☐
※「期待」とは「研修終了時に期待される状態」とする。 印象に残るエピソードがあれば以下に記述してください。特に「期待を大きく下回る」とした場合は必ず記入をお願いします。					

2ー1 医療における倫理性								
臨床面や研究面、教育面において、倫理原則や関連する法律を理解した上で個人情報に配慮する、患者及びその家族から同意をとる、インシデントを説明するなど、さまざまな意思決定の場面で、軽率に振る舞うことなく熟考した上で対応する。								
モデルコアカリキュラム 学修目標		(レベル1) (実務実習におけるアウトカム)		レベル 2		レベル3 研修終了時で期待されるレベル		レベル4
F-5-1 医療・福祉・公衆衛生の現場で活動するための基本姿勢 1) 個々の患者・生活者に寄り添い、身体的、心理的、社会的特徴の把握に努め、その想いを受け止めて患者・生活者を全人的・総合的に深く理解する。 2) 薬剤師として医療の中で求められる責任を自覚し、自らを律して行動するとともに、薬剤師としての義務及び法令を遵守する。医療の担い手として、豊かな人間性と生命の尊厳について深い認識を持ち、薬剤師の社会的使命を果たす。 3) 関係者と相互理解を図り、信頼関係を構築した上で、他者の意見又は記述された文書を正しく理解し、それに対する自分の意見を効果的な説明方法や手段を用いて明確に表現する。 4) 専門職がチームとして連携して活動を推進するため、チームの活動の活性化に積極的に貢献するとともに、チームの中での個人の責任を果たす。 5) 自己研鑽を続けることは医療・保健に携わる薬剤師の基本であることを理解し、薬学・医療の進歩に対応するために、医療・保健・介護・福祉・情報・科学技術など薬剤師を巡る社会的動向を把握する。 6) 医療の質的向上に貢献するため、再現性・信頼性・具体性のあるエビデンスの構築に努める。		豊かな人間性と生命の尊厳に関する深い認識を持ち、患者・生活者に寄り添い、権利を尊重し、利他的に行動する。		臨床、研究、教育に関する倫理的な問題を認識する。		①臨床、研究、教育に関する倫理的な問題を認識し、適切に行動することができる。		モデルとなる行動を他者に示す。
研修者	月 日	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
	月 日	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
	月 日	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
評価者	月 日	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
	月 日	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
	月 日	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
(コメント)								

2ー2 薬学知識に基づく実践能力及び問題解決能力

医薬品全般にわたる知識を身に付け、他の医療従事者並びに患者及びその家族に対応する。

調剤、医薬品の管理、医療安全等いずれの業務においても、科学的根拠を理解し、知識・技能を身に付ける。

モデルコアカリキュラム		（レベル1） （実務実習アウトカム）		レベル2		レベル3 研修終了時で期待されるレベル		レベル4	
学修目標									
F-1薬物治療の実践		(処方監査と疑義照会の実践) ・調剤監査・処方監査と疑義照会、処方提案を実践する。 患者情報と医薬品情報に基づき、処方の妥当性、適切性を判断する。必要に応じて、疑義照会の必要性を判断し、適切なコミュニケーションのもと実施し、記録し、次に活かす。		医師の治療方針や患者状態を考慮した的確な調剤を行う。		①個別化医療を考慮した鑑査を実施し、的確な調剤を行う。		個別化医療を考慮した鑑査を実施し、患者の意向や生活の質へ配慮した処方提案を行う。	
6) 医薬品の適正使用の観点から、処方監査・解析を行い、疑義照会・処方提案を実践し、調剤、服薬指導、患者教育等を行う。		(患者・来局者対応、情報提供・教育の実践) ・患者に情報提供及び患者教育を実践する。							
		(処方箋に基づく医薬品調製の実践) ・調剤監査、処方監査結果に基づき適正な医薬品調製を実践する。							
F-3-1 医薬品の供給と管理		(医薬品の供給と管理の実践) 適切な医薬品の供給と管理を実践する。		医薬品の品質確保のための供給と管理体制を理解し実践する。		②的確な品質管理を実践し、医薬品の供給及び管理を行う。		医薬品の供給管理に関する課題を分析し、最適な医薬品の管理を行う。	
1) 流通状況を踏まえ、医薬品の供給及び管理を適切に実施する。									
2) 市販されている医薬品では対応できない場合の医薬品の調製、使用、品質管理等について説明する。									
F-3-2 医薬品情報の管理と活用		(組織としての医薬品情報管理の実践) ・所属する施設の医療環境における医薬品情報に対するニーズに基づき、評価情報を提供し、不足情報に対して創造的に対応する。		医薬品情報を収集・評価し、相手に合わせた加工を行う。		③科学的根拠に基づいた医薬品情報を収集し、相手に合わせた発信を行う。		科学的根拠に基づいた医薬品情報を収集し、情報を評価、精査するとともに相手に合わせた発信を速やかに行う。	
1) 医療環境に応じて医薬品の情報源や情報媒体を把握し、利用して網羅的かつ最新の医薬品情報を収集し、医療機関や患者集団への情報の適合性や必要性を考慮する。また、根拠に基づいた適切な評価及び目的に応じた加工を行い、医薬品情報の提供、発信(伝達)を行う。									
2) 医療における安全性情報の収集に努めるとともに、安全性情報や回収情報等に対して医療環境に応じて迅速に対応する。									
3) 報告されている種々の医薬品に関する情報を整理、統合して、臨床で有益な知見を新たに構築して提供する。									
4) 適切な医薬品情報及び有害事象情報等に基づき、医療環境に応じた医薬品適正使用の推進と安全対策を立案する。									
5) 医療環境に応じた医薬品使用基準について理解し、有効かつ安全で経済的な医薬品の採用、使用等について説明する。									
研修者	月 日	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	
	月 日	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	
	月 日	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	
評価者	月 日	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	
	月 日	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	
	月 日	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	
(コメント)									

薬学知識を臨床現場で適切に活用するため、最新の薬学、医学及び医療に関する知識を獲得し、根拠に基づく医療（EBM）の考え方と手順を身に付けた上で、できるだけ多くの臨床経験を積み、自らが直面する臨床上の課題の解決を図る。								
モデルコアカリキュラム 学修目標		（レベル1） （実務実習アウトカム）		レベル2		レベル3 研修終了時で期待されるレベル		レベル4
F-1 薬物治療の実践		（患者情報の把握） 患者情報を適切に収集・評価・共有し、患者状態を正確に把握して、薬物療法に活かす。		頻度の高い疾患に対する薬物治療における有効性・安全性について評価を行う。		④頻度の高い疾患に対する薬物治療における有効性・安全性について適切な評価を行う。		複雑な疾患に対する薬物治療における有効性・安全性について適切な評価を行う。
7) 個々の患者背景を踏まえ患者の最善のアウトカムを考慮し、科学的根拠に基づく薬物治療の計画を立案する。		（医薬品情報の収集と評価・活用） ・個々の患者の薬物療法の評価等に必要な情報について、最も適切な情報源を効果的に利用し、情報を収集すると共に、得た情報及び情報源を批判的に評価し、効果的に活用する。		基本的な情報を収集し、薬学及び医学的知見に基づいた処方提案を行う。		⑤患者情報を収集し、最新の薬学及び医学的知見に基づいて、患者の意向や生活の質に配慮した処方提案を行う。		患者に関する詳細な情報を収集し、最新の薬学及び医学的知見と患者の意向や生活の質への配慮を統合した処方提案を行う。
8) 薬物治療開始時からその必要性と安全性を評価し、医薬品の不適正使用等によるリスクを回避するとともに、薬物治療開始後の患者の状態を継続的に把握し、適切に評価し、医薬品の有効性と安全性を確保する。		（薬物療法の個別最適化） ・薬物療法の問題点の評価に基づき、問題解決策を提案、実践し、薬物療法を個別最適化する。		患者の社会的背景を考慮した処方提案を行う。		⑥患者の社会的背景を考慮し、継続可能な処方提案を行う。		患者の社会的配慮を考慮した処方提案を行い、患者背景、多職種連携も勘案して実行する。
9) 疾患の病期（急性期、回復期、慢性期、終末期）や患者や家族の希望、年齢（小児から高齢者まで）、生理学的変動、療養の環境や生活状況を踏まえ、その状況に適した薬物治療を計画立案し、関係者間の情報共有により、シームレスな薬物治療を実践する。		（薬物療法の個別最適化） ・様々なモニタリング項目から患者状態適切に評価し、薬物療法の効果と副作用モニタリングを実践する。						
10) 複数の疾患、複数の医薬品が複雑に関連して治療を受けている患者の薬物治療について、その安全性、有効性を評価し、生活の質（QOL）の維持・改善、副作用の予防・早期発見等を実践する。								
11) 多職種の専門性や思考、意識等の違いを理解し、連携する多職種とどのように関われば最も患者・生活者にとって有益かを模索する。多職種からの評価を受け入れ、連携による患者・生活者のより効果的な薬物治療と継続的な薬学的管理を実践する。								
研修者	月 日	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
	月 日	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
	月 日	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
評価者	月 日	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
	月 日	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
	月 日	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
(コメント)								

2ー3 服薬指導等に関する技能と患者ケア									
服薬指導に関する技能を磨き、患者の苦痛や不安等に配慮した服薬管理を行う。									
モデルコアカリキュラム 学修目標		(レベル1) (実務実習アウトカム)		レベル2		レベル3 研修終了時で期待されるレベル		レベル4	
F-1 薬物治療の実践		(患者情報の把握) 患者情報を適切に収集・評価・共有し、患者状態を正確に把握して、薬物療法に活かす。		必要最低限の患者の健康状態に関する情報を心理・社会的側面を含めて、安全に収集する		①患者の健康状態に関する情報を、心理・社会的側面を含めて、効果的かつ安全に収集する。		複雑な症例において、患者の健康に関する情報をICTも活用し、心理的・社会的側面を含めて、効果的かつ安全に収集する。	
7) 個々の患者背景を踏まえ患者の最善のアウトカムを考慮し、科学的根拠に基づく薬物治療の計画を立案する。		(医薬品情報の収集と評価・活用) ・個々の患者の薬物療法の評価等に必要な情報について、最も適切な情報源を効果的に利用し、情報を収集すると共に、得た情報及び情報源を批判的に評価し、効果的に活用する。		基本的な疾患に対する服薬指導を実施する。		②患者の状態に合わせ、継続的な把握を含めた最適な服薬管理を行う。		複雑な疾患について、患者の状態に合わせて最適な服用指導を行う。	
8) 薬物治療開始時からその必要性和安全性を評価し、医薬品の不適正使用等によるリスクを回避するとともに、薬物治療開始後の患者の状態を継続的に把握し、適切に評価し、医薬品の有効性と安全性を確保する。		(薬物療法の個別最適化) ・薬物療法の問題点の評価に基づき、問題解決策を提案、実践し、薬物療法を個別最適化する。		薬剤管理指導として、最低限必要な内容を適切かつ遅滞なくカルテや薬歴に記載する。		③薬剤管理指導として、薬物治療内容とその根拠、有効性や安全性の評価、患者の訴えに対する返答や対応を適切かつ遅滞なくカルテや薬歴に記載する。		薬剤管理指導として、必要かつ十分な薬物治療の内容とその根拠、有効性や安全性の評価、患者の訴えに対する返答や対応を適切かつ遅滞なくカルテや薬歴に記載する。	
9) 疾患の病期(急性期、回復期、慢性期、終末期)や患者や家族の希望、年齢(小児から高齢者まで)、生理学的変動、療養の環境や生活状況を踏まえ、その状況に適した薬物治療を計画立案し、関係者間の情報共有により、シームレスな薬物治療を実践する。		(薬物療法の個別最適化) ・様々なモニタリング項目から患者状態を適切に評価し、薬物療法の効果と副作用モニタリングを実践する。							
10) 複数の疾患、複数の医薬品が複数に関連して治療を受けている患者の薬物治療について、その安全性、有効性を評価し、生活の質(QOL)の維持・改善、副作用の予防・早期発見等を実践する。									
11) 多職種専門性や思考、意識等の違いを理解し、連携する多職種とどのように関われば最も患者・生活者にとって有益かを模索する。多職種からの評価を受け入れ、連携による患者・生活者のより効果的な薬物治療と継続的な薬学的管理を実践する。									
研修者	月 日	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
	月 日	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
	月 日	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
評価者	月 日	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
	月 日	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
	月 日	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
(コメント)									

2-4 コミュニケーション能力								
患者の心理・社会的背景を踏まえて、患者や患者家族と共感的で良好な関係性を築く。								
モデルコアカリキュラム 学修目標		(レベル1) (実務実習アウトカム)		レベル2		レベル3 研修終了時で期待されるレベル		レベル4
B-2-1 対人援助のためのコミュニケーション		—		最低限の言葉遣い、態度、身だしなみで患者や家族に接する。		①適切な言葉遣い、礼儀正しい態度や身だしなみで患者や患者家族に接する。		適切な言葉遣い、礼儀正しい態度、身だしなみで、状況や患者家族の思いに合わせた態度で患者や家族に接する。
1) 患者・生活者の心理、立場、環境、状態に配慮し、非言語コミュニケーションを含めて適切なコミュニケーションを図り、良好な人間関係を構築する。								
2) 対人関係に関わる心理的要因や自己・他己理解を深め、患者・生活者や家族の多様性に配慮したコミュニケーションを図り、患者・生活者の意思決定に寄り添い、サポートする。				患者や家族にとって必要な情報を整理し、説明できる。患者の主体的な意思決定に努める。		②患者や患者家族にとって必要な情報を整理し、分かりやすい言葉で説明して、患者の主体的な意思決定を支援する。		患者や家族にとって必要かつ十分な情報を適切に整理し、分かりやすい言葉で説明し、薬学的見地を加味した上で患者の主体的な意思決定を支援する
3) 患者・患者家族の精神的・身体的・社会的苦痛に配慮し、相手の心情に配慮したコミュニケーションを図る。				患者や家族の主要なニーズを把握する。		③患者や患者家族のニーズを身体・心理・社会的側面から把握する。		患者や家族のニーズを身体・心理・社会的側面から把握し、統合する。
研修者	月 日	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
	月 日	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
	月 日	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
評価者	月 日	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
	月 日	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
	月 日	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
(コメント)								

2ー5 チーム医療の実践									
医療従事者をはじめ、患者や患者家族に関わる全ての人々の役割を理解し、連携を図る。									
モデルコアカリキュラム 学修目標		(レベル1) (実務実習アウトカム)		レベル2		レベル3 研修終了時で期待されるレベル		レベル4	
F-2-1多職種連携への参画・薬剤師の職能発揮 1)多様な医療チームにおける薬剤師及び多職種の役割を説明し、薬剤師に求められる役割と責任を自覚する。 2)地域に応じた施設間連携等の医療制度、保健福祉制度等を説明する。 3)機能が異なる病院間、病院と薬局間、薬局と薬局との間等の施設間の連携、地域包括ケアシステムにおける医療、保健、介護、福祉に関する連携に参画して、入退院時等における療養環境の変化にシームレスな患者支援を実践する。 4)連携する多職種とともに、患者・生活者にとって何が重要な課題かを明確にし、共通の目標を設定し、チームの活動方針を共有し課題解決を図るとともに、薬学的観点からチームの活動に有益な情報を提供する。 5)患者や家族が議論や意思決定に積極的に参加できるように多職種・患者や家族に働きかける。 6)各専門職の背景が異なることに配慮し、双方向に互いの専門職としての役割、知識、意見、価値観を共有する。また、相互理解を深め、対立や葛藤を回避せず、お互いの考えを確認しながら連携する職種間の合意を形成し、患者・生活者の問題解決を図る。 7)積極的にコミュニケーションを取り、連携する多職種と信頼関係を構築し、その維持、向上に努める。 8)連携する多職種との関わりを通して、薬剤師としての専門性や思考、意識、感情、価値観などを振り返り、その経験をより深く理解して連携に活かすとともに、薬剤師としての専門性向上に努める。		(多職種との関わりを通じた薬剤師職能の理解と自覚) 多職種との関わりを通して薬剤師としての職能を自覚することで、チーム医療において職能を十分に発揮する。 患者、生活者、連携する多職種と円滑なコミュニケーションを図り、情報共有し、発信する。		医療を提供する組織やチームの目的等を理解し、チームの一員としての責務を理解する。 					

2-6 医療の質と安全管理									
患者にとって良質かつ安全な医療を提供し、医療従事者の安全性にも配慮する。									
モデルコアカリキュラム 学修目標		(レベル1) (実務実習アウトカム)		レベル2		レベル3 研修終了時で期待されるレベル		レベル4	
F-3-3医療安全の実践 1) 自らのヒヤリハット事例などを振り返り、医療現場の安全の向上に努める。 2) 医療に関するリスクマネジメントにおける薬剤師の責任と義務を把握し、医療現場での患者安全の原則と概念、安全を確保する体制や具体的な方策を説明する。 3) 医療過誤やインシデント・アクシデント事例を収集し、要因を解決した上で、発生時や対応時における法的措置(刑事責任・民事責任)を理解し、医療環境に合わせた適切な対応と予防策を検討する。		(医療安全の実践) 当該施設における医療安全を適切に実践する。		医療の質と患者安全の重要性を理解する。 日常業務において、適切な頻度で報告、連絡、相談ができる。 インシデントの予防と事後対応の必要性を理解する 医療従事者の健康管理と自らの健康管理の必要性を理解する。		①医療の質と患者安全の重要性を理解し、それらの評価・改善に努める。 ②日常業務の一環として、報告・連絡・相談を実践する。 ③インシデントの予防と事後の対応を行う。 ④医療従事者の健康管理(健康診断、予防接種や針刺し事故への対応を含む)を実践し、自らの健康管理に努める。		医療の質と患者安全について、日常的に認識・評価し、改善を提言する。 報告・連絡・相談を実践するとともに、他者からの報告・連絡・相談に対応する。 インシデントを分析し、予防と事後対応を行う。 自らの健康管理に努め、他の医療従事者の健康管理にも留意する。	
研修者	月 日	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
	月 日	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
	月 日	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
評価者	月 日	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
	月 日	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
	月 日	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
(コメント)									

2ー7 社会における医療の実践								
医療の持つ社会的側面の重要性を踏まえ、各種医療制度・システムを理解し、地域社会と国際社会に貢献する。								
モデルコアカリキュラム 学修目標		(レベル1) (実務実習アウトカム)		レベル2		レベル3 研修終了時で期待されるレベル		レベル4
F-4-1地域住民の疾病予防・健康維持・増進の推進、介護・福祉への貢献 1)地域住民が自らの健康生活を維持するための健康の相談窓口として、有益な知識・情報を積極的に提供し、適切なアドバイスを気軽に受けられる環境を整備して、地域住民の健康維持・管理を支援する。 2)地域包括ケアシステムにおけるかかりつけ薬剤師の役割を理解し、地域住民の介護・福祉を向上させるために地域連携を推進し、生活環境、生活の質(QOL)の維持・改善に尽力する。 3)地域における医療、保健、介護、福祉等の疫学データを活用して、地域住民の健康状態及び地域独自の医療、保健、介護、福祉環境等の課題を把握するとともに、それらの課題改善への取り組みを科学的エビデンスに基づき検討し提案する。		(疾病予防・健康維持・増進の実践) 地域医療や介護、福祉の中で、地域住民の疾病予防や健康維持・増進、携わる。		保健医療に関する法規・制度を理解する。 健康保険、公費負担医療の制度を理解する。 地域の健康問題やニーズを把握する重要性を理解する。		①保健医療に関する法規・制度の目的と仕組みを理解する。 ②医療費の患者負担に配慮しつつ、健康保険、公費負担医療を適切に活用する。 ③地域の健康課題やニーズを把握し、必要な対策を提案する。		保健医療に関する法規・制度の目的と仕組みを理解し、実臨床において患者へ適切に説明できる。 健康保険、公費負担医療の適用の可否を理解し、患者へ適切に説明できる。 地域の健康課題やニーズを把握し、必要な対策を提案・実行する。
F-4-2地域での公衆衛生、災害対応への貢献 1)薬剤師として求められる地域住民の生活・衛生環境の保全、疾病予防や感染拡大防止による医療環境の維持・整備を実際の地域の中で実践し、地域住民の健康的な環境を確保する。 2)住民・児童生徒に向けた保健知識の普及指導・啓発活動を実践して、住民・児童生徒の公衆衛生意識を向上し、生活環境の向上に積極的に寄与する。 3)災害時に薬剤師が果たすべき役割や備え等を理解し、行動(シミュレーション)する。		(公衆衛生・災害への対応実践) 公衆衛生等に携わり、個々の課題解決に取り組む。		予防医療・保健・公衆衛生、健康維持増進・重症化予防の必要性を理解する。 地域包括ケアシステムを理解し、薬剤師が果たす役割を理解する。 災害や感染症パンデミックなどの非日常的な医療需要が起こりうることを理解する。		④予防医療、保健・公衆衛生、健康維持増進・重症化予防に努める。 ⑤地域包括ケアシステムを理解し、その推進に貢献する。 ⑥災害や感染症パンデミックなどの非日常的な医療需要に備える。		予防医療・保健・公衆衛生、健康増進について具体的な改善案などを提示する。 地域包括ケアシステムを理解し、その推進に積極的に参画する。 災害や感染症パンデミックなどの非日常的な医療需要を想定し、組織的な対応を主導する。
研修者	月 日	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
	月 日	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
	月 日	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
評価者	月 日	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
	月 日	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
	月 日	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
(コメント)								

【研修者評価票Ⅱ】

研修者名

評価者氏名

(職種名：)

評価期間

年 月 日 ～ 年 月 日

別添 評価票Ⅱ

F-1 薬物治療の実践									
観点	アウトカム		レベル1		レベル2		レベル3 (実習終了時で期待されるレベル)		レベル4
処方監査と疑義照会の実践	調剤監査・処方監査と疑義照会、処方提案を実践する。患者情報と医薬品情報に基づき、処方の妥当性、適切性を判断する。必要に応じて、疑義照会の必要性を判断し、適切なコミュニケーションのもと実施し、記録し、次に活かす。		患者情報に基づき、処方箋の不備・不適切な点の有無を判断する。判断した内容について、疑義照会の必要性を判断し、対応する。疑義照会をした場合は、その内容を適切に記録する。		患者情報と処方薬の基本的な医薬品情報に基づき、処方の妥当性を判断する。疑義照会の必要性を判断すると共に、必要に応じて代替案を検討した上で、適切に実施する。		患者情報と薬学的知見を統合し、患者の薬物療法のアウトカムに照らして、処方の妥当性、適切性を判断する。必要に応じて、疑義照会・処方提案を適切に実施し、チーム内で情報を共有する。		患者個々の薬物療法におけるアウトカムを患者及びチームと共有し、病状の経過や生活環境・心理・想い(ナラティブ)を考慮して、患者に提供される薬物療法の妥当性・適切性を的確に判断する。 薬物療法における患者のアウトカムを達成するために、疑義照会・処方提案を行い医師の処方行動の変容を促す。
研修者		月 日	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
		月 日	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
		月 日	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
評価者		月 日	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
		月 日	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
		月 日	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
(コメント)									

観点	アウトカム		レベル1		レベル2		レベル3 (実習終了時で期待されるレベル)		レベル4
患者・来局者応対、情報提供・教育の実践	患者に情報提供及び患者教育を実践する。		医薬品を安全かつ有効に使用するための情報を種々のツールを用いて患者に提供する。指導、教育内容を適切に記録する。		患者の理解度を確認しながら、患者背景に配慮した情報提供を行う。		患者背景や治療に対する患者の思い、ニーズなどを的確に把握し、それを踏まえた情報提供及び教育を行う。		患者との良好な関係を構築し、患者ニーズを勘案した上で最適な情報提供及び患者教育を継続して実施する。
研修者		月 日	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
		月 日	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
		月 日	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
評価者		月 日	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
		月 日	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
		月 日	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
(コメント)									

観点	アウトカム		レベル1		レベル2	レベル3 (実習終了時で期待されるレベル)		レベル4
処方箋に基づく医薬品調製の実践	調剤監査、処方監査結果に基づき、適正な医薬品調製を実践する。		計数・計量調剤(散剤、水剤、軟膏など)を正確に行う。一包化、錠剤等の粉碎、適切な賦形等、工夫を必要とする調剤について、その理由を確認しながら、適切に実施する。注射処方箋にしたがって、無菌的混合操作を実施する。		－	監査・調剤において特別な注意を要する医薬品を確認し、その適切な取り扱いを行う。調剤業務の中で調製された薬剤の監査を行い、誤りがあれば指摘する。抗悪性腫瘍薬調製において、ケミカルハザード回避操作を適切に実施する。		－
研修者			月 日	□	□		□	－
			月 日	□	□		□	－
			月 日	□	□		□	－
評価者			月 日	□	□		□	－
			月 日	□	□		□	－
			月 日	□	□		□	－
(コメント)								

観点		アウトカム		レベル1		レベル2		レベル3 (実習終了時で期待されるレベル)		レベル4	
患者情報の把握		患者情報を適切に収集・評価・共有し、患者状態を正確に把握して、薬物療法に活かす。		患者から薬物治療に係る基本的な情報(症状、既往歴、アレルギー歴、医薬品の使用歴、副作用歴、生活状況等)を収集する。患者情報の各種媒体(診療録、調剤録・指導記録、看護記録、検査記録、お薬手帳等)から薬物治療に必要な情報を収集し、評価する。		患者の病態や状況(高齢者、妊婦・授乳婦、小児、障害を持った方等)に配慮し、情報を収集する。自ら身体所見を得るための観察・測定等を実施し、収集した患者情報を評価し、患者の状態を把握する。		患者の薬物療法のアウトカムを達成するために必要な情報を的確に判断し、患者から情報収集する。多職種との情報共有の機会(回診、カンファレンス等)に積極的に参加し、情報の発信と共有により、患者情報の精度を高め、より多面的かつ正確に患者状態を把握する。		把握した患者情報を、患者の環境、状態、必要性に応じて、医薬品の効果や副作用のモニタリングに活用し、継続的に収集・整理・把握し、薬物療法の評価に活かす。	
研修者		月	日	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
		月	日	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
		月	日	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
評価者		月	日	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
		月	日	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
		月	日	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
(コメント)											

観点	アウトカム		レベル1		レベル2		レベル3 (実習終了時で期待されるレベル)		レベル4		
医薬品情報の収集と評価・活用	個々の患者の薬物療法の評価等に必要な情報について、最も適切な情報源を効果的に利用し、情報を収集すると共に、得た情報及び情報源を批判的に評価し、効果的に活用する。		個々の患者の薬物療法の評価等に必要な基本的な情報源である医薬品添付文書、インタビューフォーム、RMP,診療ガイドラインなどを確認し、情報収集する。得た情報の評価を行う。		個々の患者の薬物療法の評価等に必要な情報調査において、その目的を明確にし、基本的な情報源に加え、複数の情報源を利用して調査を実践する。得た情報の評価を常に行い、患者や医療スタッフのニーズを踏まえて提供する。		個々の患者の薬物療法の評価等に必要な情報調査において、その目的に合わせて、一次資料(原著論文)も含めた適切な情報源を利用し、調査を実践する。得た情報を量的、質的に評価し、提供する。患者の行動変容につながる情報や医療の質向上に寄与する情報を主体的に作成・発信する。		個々の患者の薬物療法の評価等に必要な情報調査において、その目的に合わせて、最も適切な情報源を効果的に利用し、情報を収集する。得た情報及び情報源を批判的に評価し、活用する。不足する情報については、常に新たな情報を収集・整理し、エビデンスを創出するよう努力する。		
研修者	月	日	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	
	月	日	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	
	月	日	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	
評価者	月	日	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	
	月	日	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	
	月	日	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	
(コメント)											

2/7

観点		アウトカム		レベル1		レベル2		レベル3 (実習終了時で期待されるレベル)		レベル4	
薬物療法の個別最適化		薬物療法の問題点の評価に基づき、問題解決策を提案、実践し、薬物療法を個別最適化する。		薬物療法の有効性、アドヒアランス不良や腎機能低下時の投与量などの基本的な安全性の問題点を識別し、現状評価を行い、必要な場合は処方設計を行う。		常に、有効性、安全性、経済性の観点から問題点の識別と現状評価を行う。 処方設計を含めた解決策について、主体的に検討し、当該ケースの薬物療法の個別最適化に努める。		薬物療法の問題点を主体的に識別する。問題点の現状評価を明確に行い、処方設計や他の解決策について検討し、論理的で実行可能な解決策を明示し、提案する。		薬物療法や生活習慣の問題点を重要性や緊急性を考慮して適切に識別し、現状評価を正確に行う。当該ケースにおける最善の解決策を見極め、提案する。 論理的で実行可能な解決策を実行に移し、その結果を評価する。	
研修者		月	日	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
		月	日	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
		月	日	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
評価者		月	日	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
		月	日	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
		月	日	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
(コメント)											

観点	アウトカム		レベル1		レベル2		レベル3 （実習終了時で期待されるレベル）		レベル4		
薬物療法の個別最適化	様々なモニタリング項目から患者状態を適切に評価し、薬物療法の効果と副作用モニタリングを実践する。		代表的な疾患を有する患者を担当し、薬物療法の有効性、安全性を評価する指標を適切に指摘する。患者の状態をモニタリングするためのツールとして、臨床検査値の継続的な確認をする。		薬物療法の有効性、安全性を評価するために必要な指標を継続的にモニタリングし、患者の状態を評価する。評価結果は、適切にカルテや薬歴などに記録する。		患者の状態、薬物療法の有効性及び安全性、QOLの維持・改善や効果不十分などの観点で患者を観察し、適切に判断する。安全性の面では、相互作用、副作用の発現等を検討し、必要に応じて、処方変更や問題解決につなげる。副作用を確認した場合は、副作用軽減化の対策を検討すると共に、副作用報告等を主体的に実施する。		薬物療法に関する経過モニタリングを基に患者の状態を総合的に評価し、処方設計や問題解決につなげ、薬物療法のPDCAサイクルを効果的に回し、薬物療法の質の向上に貢献する。		
研修者	月	日	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	
	月	日	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	
	月	日	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	
評価者	月	日	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	
	月	日	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	
	月	日	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	
(コメント)											

F-2-1 多職種連携への参画・薬剤師の職能発揮									
観点	アウトカム		レベル1		レベル2		レベル3 (実習終了時で期待されるレベル)		レベル4
多職種との関わりを通した薬剤師職能の理解と自覚	多職種との関わりを通して薬剤師としての職能を自覚することで、チーム医療において職能を十分に発揮する。患者、生活者、連携する多職種と円滑なコミュニケーションを図り、情報共有し、発信する。		多様なチーム医療の発揮が求められる現場に身を置き、多職種のチームでの役割発揮を観察し、多職種の専門性を理解する。多職種と積極的にコミュニケーションをとり、他者からの評価を受け入れ、チームの一員となる努力をする。		多様なチーム医療の現場で、患者・生活者の抱える課題、問題点とチームの目標と方針を把握する。この中で、自らの職能をどう活かすかについて意見を持つ。多職種と関わることで、チーム医療における薬剤師職能のニーズに気づき、チームでの情報共有と意思表示を行う。		患者・生活者の抱える課題や問題について多職種での情報共有を適切に行い、明確化すると共に、議論に積極的に加わる。この中で、薬剤師としての思考、意識、感情、価値観等を常に振り返る。その経験と省察を繰り返す。		患者・生活者の抱える課題や問題に対し、多職種で目標を設定し、合意形成を図ることなどにより、患者・生活者・家族などの意思決定を支援する。シームレスな患者支援を実践するために、常に、薬剤師としての専門性向上に努める。
研修者	月	日	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
	月	日	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
	月	日	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
評価者	月	日	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
	月	日	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
	月	日	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
(コメント)									

3/7

F-3-1 医薬品の供給と管理									
観点	アウトカム		レベル1		レベル2		レベル3 (実習終了時に期待されるレベル)		レベル4
医薬品の供給と管理の実践	適切な医薬品の供給と管理を実践する。		所属する施設で取り扱う医薬品の種類と取扱い上の注意点を把握し、発注や補充、棚卸等の業務の中で適切な在庫管理を行う。		取扱いに注意が必要な医薬品（劇薬・毒薬・麻薬・向精神薬および覚醒剤原料、特定生物由来製品、放射性医薬品、院内製剤、薬局製剤等）の適切な管理（発注、供給、補充、保管、記録等）を実践する。医薬品の保管条件や有効期限を考慮した管理と供給を行う。		医薬品の供給と品質管理について、課題を分析し、抽出する。抽出した課題に対し、解決するための対策を議論し、提案する。		適切な医薬品の供給と管理を実践するために、不足している情報やテーマを明確化し、新たな知見を見いだす取り組みを行う。
研修者	月	日	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
	月	日	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
	月	日	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
評価者	月	日	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
	月	日	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
	月	日	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
(コメント)									
F-3-2 医薬品情報の管理と活用									
観点	アウトカム		レベル1		レベル2		レベル3 (実習終了時に期待されるレベル)		レベル4
組織としての医薬品情報管理の実践	所属する施設の医療現場における医薬品情報に対するニーズに基づき、評価情報を提供し、不足情報に対して創造的に対応する。		所属する施設の医療環境に応じて医薬品適正使用及び安全性情報を積極的に収集、管理する。		所属する施設の医療環境における医療従事者、患者などのニーズを把握し、根拠に基づいた適切な評価を行い、目的に応じて加工し、適切な医薬品情報の提供、発信（伝達）を行う。		適切な医薬品情報及び有害事象情報等に基づき、医療環境に応じた医薬品適正使用を推進するための安全対策を立案する。医薬品の採用に当たって評価すべき情報をあげ、必要な情報を収集して、有効かつ安全で経済的な医薬品の採用、使用等について説明する。		適正使用を推進するために不足している情報やテーマを明確化し、新たな知見を見いだす取り組みを行う。
研修者	月	日	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
	月	日	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
	月	日	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
評価者	月	日	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
	月	日	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
	月	日	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
(コメント)									
F-3-3 医療安全の実践									
観点	アウトカム		レベル1		レベル2		レベル3 (実習終了時に期待されるレベル)		レベル4
医療安全の実践	当該施設における医療安全を適切に実践する。		所属する施設で実施されている医薬品および医薬品以外の安全管理体制、手順書等を確認し、その仕組みを理解する。		自分の経験したミスを記録し、報告し、振り返り、分析する。分析に対して対応策を検討し、実行する。		研修のなかで経験したり、蓄積されているインシデントやアクシデント、ブレイバード報告などをもとに、所属する医療環境の医療安全における課題を分析し、抽出する。抽出した課題に対し、解決するための対策を議論し、提案する。		医療安全のレベルを向上するために不足している情報やテーマを明確化し、新たな知見を見いだす取り組みを行う。自身の経験を振り返り、各種手順書への反映やブレイバード報告などを通じ、医療安全の質向上に積極的に関与する。
研修者	月	日	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
	月	日	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
	月	日	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
評価者	月	日	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
	月	日	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
	月	日	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
(コメント)									

F-3-4 医療現場での感染制御									
観点	アウトカム		レベル1		レベル2		レベル3 （実習終了時で期待されるレベル）		レベル4
感染制御の実践	感染対策を理解し実践する。		自らの健康観察を行い、「感染しない」「感染させない」ための基本行動をとる。		感染予防に配慮し、臨床検体・医療廃棄物を適切に取り扱う。施設の感染管理の規定を遵守する。標準予防策を適切に実践する。		当該施設での感染対策（予防、まん延防止など）について、課題を分析し、抽出する。抽出した課題に対し、解決するための対策を議論し、提案する。		感染制御のレベルを向上するために不足している情報、テーマを明確化し、新たな知見を見いだす取り組みを行う。
研修者	月	日	□	□	□	□	□	□	□
	月	日	□	□	□	□	□	□	□
	月	日	□	□	□	□	□	□	□
評価者	月	日	□	□	□	□	□	□	□
	月	日	□	□	□	□	□	□	□
	月	日	□	□	□	□	□	□	□
(コメント)									

F-4-1 地域住民の疾病予防・健康維持・増進の推進・介護・福祉への貢献									
観点	アウトカム		レベル1		レベル2		レベル3 (実習終了時で期待されるレベル)		レベル4
疾病予防・健康維持・増進の実践	地域医療や介護、福祉の中で、地域住民の疾病予防や健康維持・増進、携わる。		地域住民からのセルフケア、セルフメディケーションの相談に積極的に応じる。		地域住民に対する健康相談、栄養相談、介護相談等の機会を積極的にとらえ、参加し、地域住民の潜在的な問題に気づく。		地域住民の健康や疾病予防における課題や問題点を抽出し、整理し、解決を目指した取組に積極的に関わる。		地域住民の健康や疾病予防について整理抽出した課題に対し、地域の疫学的データなどを利用して対応策を検討し、提案する。この繰り返しにより地域の公衆衛生の向上に積極的に関与する。
研修者	月	日	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
	月	日	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
	月	日	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
評価者	月	日	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
	月	日	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
	月	日	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
(コメント)									

F-4-2 地域での公衆衛生、災害対応への貢献									
観点	アウトカム		レベル1		レベル2		レベル3 (実習終了時で期待されるレベル)		レベル4
公衆衛生・災害への対応実践	公衆衛生等に携わり、個々の課題解決に取り組む。		地域、組織の業務継続計画(BCP)活動に参加し、自らの行動をシミュレーションし、記述する。地域における感染症予防、拡大防止を想定し、発生における消毒や予防対策をシミュレーションする。		学校薬剤師に同行し、学校環境の問題点の抽出とその改善対応に取り組む。医薬品適正使用や薬物乱用防止、禁煙活動などに取り組む、現状の把握を行うと共に、教育的な指導に取り組む。		地域住民や学校の生活・衛生環境の保全における課題や問題点を抽出し、解決を目指した取組に積極的に関わる。		地域住民や学校の生活・衛生環境の保全について整理抽出した課題に対し、具体的な対応策の検討を行い提案する。この繰り返しにより、地域住民の公衆衛生意識の向上と生活環境の向上に積極的に関与する。
研修者	月	日	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
	月	日	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
	月	日	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
評価者	月	日	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
	月	日	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
	月	日	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
(コメント)									

F-5-1 医療・福祉・公衆衛生の現場で活動するための基本姿勢									
観点	アウトカム		レベル1		レベル2		レベル3 （実習終了時で期待されるレベル）		レベル4
医療人としての倫理観と利他的行動	豊かな人間性と生命の尊厳に関する深い認識を持ち、患者・生活者に寄り添い、権利を尊重し、利他的に行動する。		生と死の現場で、薬剤師が人の命に関わる職業であることを自覚し、何ができるかを深く考察する。他者の人権を尊重し、思いやりを持って利他的に行動する。		生命の尊厳を意識し、多様性、人間性を尊重する。患者・生活者の視点に立ち、その想いを受け止め、生活全般を観察・評価する。		患者・生活者の想いに寄り添い、その自己決定をサポートする。患者・生活者の安全と利益を最優先した倫理的判断をする。		患者・生活者を全人的・総合的に深く理解し、患者・生活者の利益と安全を最優先して行動する。
研修者	月	日	□	□	□	□	□	□	□
	月	日	□	□	□	□	□	□	□
	月	日	□	□	□	□	□	□	□
評価者	月	日	□	□	□	□	□	□	□
	月	日	□	□	□	□	□	□	□
	月	日	□	□	□	□	□	□	□
(コメント)									

観点	アウトカム	レベル1		レベル2			レベル3 （実習終了時で期待されるレベル）			レベル4	
医療人としての心構えと自己研鑽	薬剤師としての社会的責務を深く理解し、使命感と責任感を持つ。	薬剤師としての義務及び法令を遵守する。患者・生活者のプライバシー保護に留意する。自らの健康管理や時間管理が、患者・生活者の健康を守ることに直結することを自覚する。		医療人として守らなければならない法令を遵守し、法令の遵守ができていない事例などを見過さず、その適切な解決に積極的に参画する。			薬剤師としての人の健康の維持・増進に貢献する社会的使命を深く理解し、使命感と責任感を自覚する。			医療人として社会に貢献する自覚と心構えを持ち、常に自らを律して行動する。	
研修者	月 日	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	
	月 日	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	
	月 日	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	
評価者	月 日	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	
	月 日	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	
	月 日	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	
(コメント)											

観点	アウトカム		レベル1		レベル2			レベル3 （実習終了時で期待されるレベル）		レベル4	
医療人としての心構えと自己研鑽	医療人としての心構えを持ち、常に自己研鑽に努める。		人の命に深く関わり健康を守るという職責を自覚し、常に知識と技能の修得に努める。		進化する社会のコミュニケーションや情報関連ツールを適切に活用して、社会の変化に対応する。生涯にわたり学び続ける価値観を持ち、自分自身又は仲間と学び合うことを通して、共に学ぶ姿勢を心がける。			研鑽を続けることは医療・保健に携わる薬剤師の基本であることを理解し、主体的に自己研鑽に努める。良き後輩を育てることは医療人としてのつとめであることを認識し誰かのロールモデルとなるよう努力する。		医療・福祉・公衆衛生を担う薬剤師として、自己及び他者と共に研鑽し教えあいながら、自ら到達すべき目標を定め、生涯にわたって学び続ける。	
研修者	月	日	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
	月	日	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
	月	日	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
評価者	月	日	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
	月	日	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
	月	日	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
(コメント)											

観点	アウトカム		レベル1		レベル2		レベル3 (実習終了時で期待されるレベル)		レベル4	
他者との相互理解と信頼関係の構築	他者との相互理解をはかり、信頼関係を構築する。		他者に対して、誠実に思いやりを持って対応する。他者からのフィードバックを適切に受け入れる。		自身の限界を認識し、他者を理解することに努める。 他者理解の妨げとなる偏見や自己の知識不足による理解不足がないか常に意識して行動する。		多職種と協働する上において、職能の背景が異なることに配慮し、情報共有し、意見交換し、相互理解に努める。		自他の役割や思考・行為・感情・価値観を踏まえ、協働する多職種で信頼関係を構築するよう努力する。時に生じる職種間の葛藤にも適切に対応し、互いの職能を活かし合い、職種としての役割を全うする。	
研修者	月	日	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
	月	日	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
	月	日	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
評価者	月	日	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
	月	日	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
	月	日	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
(コメント)										

観点		アウトカム		レベル1		レベル2			レベル3 (実習終了時で期待されるレベル)			レベル4	
エビデンスの構築への貢献		医療現場や地域の課題を科学的な視点で考察し解決策を提案するとともに、その成果を広く社会に公表し薬学の進歩に資する。		患者の担当や事例の経験について、得た学び、気づきを常に記録し、自ら省察する。		患者の担当や事例経験からの気づきを定期的に振り返り、議論し、内在している問題や課題を検討し、明確化する。			明確化した問題や課題に対し、解決に向けたアプローチを議論し、解決策・対応策を提案する。 臨床現場で実施可能な内容については、問題や課題の解決に向けた取り組みを行う。			臨床現場での経験や課題解決の取組、科学的アプローチによる臨床課題の発見・解析等をまとめ、公表する。 ※公表とは、大学での発表、学会への発表、症例報告や大学に持ち帰っての議論や検討、さらに論文での公表等を想定。	
研修者		月	日	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
		月	日	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
		月	日	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
評価者		月	日	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
		月	日	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
		月	日	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
(コメント)													